

バングラデシュのジャムダニ工芸と開発援助に関する 文化人類学的研究

岡 田 菜穂子

広島大学アクセシビリティセンター

Anthropological study of *Jamdani* handicraft and development assistance in Bangladesh

Nahoko OKADA

Accessibility center, Hiroshima University

本論文の目的は、開発援助活動をバングラデシュの社会変化の要因の一つとしてとらえ、手織り布ジャムダニ (*jamdani*) 工芸の動態の社会的背景について、文化人類学的立場から明らかにすることにある。具体的には、筆者の2002年9月～2004年3月までの約18か月に及ぶ首都ダッカと村落における民族誌的調査をもとに、開発援助活動と村落におけるジャムダニ生産工程の比較と、ジャムダニの生産から販売に至る過程に携わる様々な人々の社会関係を分析する。本論文は7章構成である。

第一章 問題の所在

1971年の独立以降、バングラデシュでは様々な開発援助活動が展開されてきた。本論文で取り上げるジャムダニに関して、NGO (Non Governmental Organization) や政府機関では、開発援助プログラムの一環として展示・販売と生産に関わるプロジェクトを手掛けている。開発援助活動は、ジャムダニ工芸と、ジャムダニに関わる人々の社会関係にいかなる変化をもたらすのか、その変化の仕方の社会背景について明らかにしたい。

本論では、ジャムダニに関わる人々の社会関係の分析を行う。先行研究では、多くの社会で布づくりの担い手は女性であることから、布づくりに着目することでジェンダーの視点から社会を読み直す試みが展開され、女性が布を作ることで社会的立場を獲得していく過程が示されている。本論で取り上げるジャムダニの主な生産者は男性であるが、ジャムダニづくりには女性も関わっている。そこで、男性が中心となる布の生産工程における女性の役割と、地域社会での女性の位置づけを明らかにし、男女の役割分担と布づくりの関係を考察する。さらに、これまでジャムダニは特定の村落に住む親族によって織られると説明されることが多かったことから、ジャムダニの生産に関わる親族関係の分析を行う。本論では特に、バングラデシュ社会で見られるパルダという男女区分の概念を取り上げ、パルダによる文化的規定と機織りとの関係を検討する。

第二章 ジャムダニの展示・販売と開発援助活動の役割

第二章では、ジャムダニ工芸に関する開発援助活動について検討した。NGOや政府機関は、展

示と販売の場でジャムダニの歴史や希少性・繊細さ・織りの技術の高さを強調することで、バンガラデシュを代表する高級な布としてジャムダニをブランド化することに成功していた。

しかし、工房の集約化を行い、仲介者を排除し生産と販売を直接管理することによって職人の生活向上を目指そうとする大規模な生産プロジェクトには、参加者も少なくプロジェクトエリアは閑散としている。なぜ、この新しい生産プロジェクトが功を奏しないのかを明らかにするために、従来からの村落におけるジャムダニの生産工程を検討することが不可欠である。

第三章 ジャムダニの生産工程とマハジャンの役割

第三章では、村落におけるジャムダニの生産工程を説明し、第二章での議論を踏まえて、開発援助活動が目指すジャムダニの生産モデルとの共通点と相違点を明らかにした。

開発援助活動が目指すジャムダニの生産のモデルは、工房を一か所に集め集中管理することによる工場制手工業としてとらえることができる。対して村落では、分業された生産工程をマハジャンと呼ばれる仲介者がつなぐ、プッティングアウト・システムによってジャムダニが織られている。

村落でのジャムダニの生産工程は細分化・専門化され、複数の村落に点在している。村落をまたいでモノ・人・カネが移動することで、ようやく一枚のジャムダニが織り上がる。村落でのジャムダニ生産には、これらの工程をつなぎ合わせる仲介者の役割が必要不可欠である。また、村落でのネットワークを持たないNGO等の部外者では、この役割を果たすことは極めて困難である。

第四章 生活空間としてのバリ

第四章では、村落では生活空間である屋敷地にジャムダニを織る工房が立地し、家庭内工業の要素を持っていることから、生活空間としての屋敷地の意味を検討した。

屋敷地はバリと呼ばれ、父系親族を基準とした

成員が住む生活空間の単位である。屋敷地バリと男女区分の概念であるパルダとの関連を見ると、バリはそこに住む女性をバリの外から護る機能を備えていることが明らかとなった。

第五章 職場としての工房

第五章では、第四章の議論を踏まえ、ジャムダニ生産に関わる人々の社会関係に、当該地域社会の親族やジェンダーに関する文化的規範がどのように反映されているのかを明らかにした。

ジャムダニの生産に関わるのは、特定の親族に限らない。しかし、屋敷地の中の工房でジャムダニを織るということは、そこに住む人々にとっては、自分たちの生活空間に他人を迎え入れるということである。そのため、工房主を兼ねる仲介者は、屋敷地内の秩序を乱さないよう工房を運営している。女性の機織り職人は、自分の屋敷地を離れて工房のある屋敷地で働く際にキョウダイを同行することで、男性と空間を共有しながらもパルダを犯す危険性を最低限に留め、自らの安全を守るセキュリティを高めていることが明らかになった。

第六章 ジャムダニの取引に見るマハジャンのマネージメント

第六章では、開発援助活動が、ジャムダニに関わる人々の生活や社会関係にどのような影響を与えるのかを明らかにした。特に着目したのはジャムダニの取引の場である。

NGOは、仲介者マハジャンからジャムダニを買い取る。その際、品質の評価を行い、卸値の決定において主導権を握るのはNGOや政府機関のスタッフで、しかも多くの場合女性である。このことは、村落では仲介者が職人に対して賃金額を決定し、ジャムダニの色やデザインを職人に指示することにおいて優位性を保持してきたこととは対比的である。それでも仲介者にとっては、支払いの安定性と確実性が見込めるNGOとの取引は好ましい。仲介者はNGOとの関係を継続するために、NGOの要望に答えるべく製品を融通した

り好まれるデザインを取り入れたりしている。

開発援助活動によるジャムダニ市場の拡大がもたらしたのは、雇用の場の創出である。村落では、女性が工房で布を織る機会が与えられた。NGOや政府機関では、手工芸部門のマネージャー等、女性の新しいポストが誕生した。仲介者は、ジャムダニの取引における女性優位の状況を、女性のポスト獲得の背景にある夫や父親の存在を引き合いに出すことで納得しようとしている。

第七章 結論

結論では、これまで議論してきたジャムダニ工芸に関わる人々の社会関係の分析から、開発援助がもたらす影響について考察した。本論の結論は、以下の4点にまとめることができる。

① 開発援助による販売の拡大と雇用の場の創出

開発援助活動がジャムダニ工芸にもたらしたもののひとつはジャムダニの市場の拡大である。NGOは、バングラデシュ国内の富裕層や国外でのジャムダニの販売網を開拓し、拡充した。このことによってNGOは、バングラデシュ国内のローカルなマーケットの中に限られていたジャムダニの需要をグローバル市場に開くという大きな役割を担った。

もうひとつは雇用の場の創出である。NGOや政府機関では、手工芸部門の担当等として女性の進出が見られた。

② ジャムダニの二つの生産工程の関係について

開発援助活動の一環として政府機関が打ち出した、工房の集約化と生産・販売の直接管理による大規模なプロジェクトでは、ジャムダニの生産を担うには限界があった。その理由は、ジャムダニの生産工程が細分化・専門化し、また地域的にも分散して成り立っていることから、仲介者マハジャンが各工程をつなぐプッティングアウト・シ

ステムの方がより現実的で効果的であるからである。NGOが開拓した販売網と従来の生産工程とが結びつくことによって初めて、ジャムダニ工芸は活性化する。

③ 地域の文化的規範と織りの関係について

村落では、生活空間である屋敷地の中に機織り工房が立地することで、屋敷地に住む人々と工房に通う職人は、互いにパルダを守る工夫をしながら生活したり機織り作業をしたりすることになる。本論では、布の生産に関わる男性と女性の役割の違いや、屋敷地における男性と女性の空間利用の仕方の違い等に目を向け、パルダと屋敷地と織りの関係性を明らかにした。

④ 仲介者の役割の重要性について

仲介者は、細分化された生産工程をつなぎ、製品を生産の場から取引の場へと運ぶ。ジャムダニ工芸に関わる人々の中で、この役目を担うことができるのは仲介者のみであった。また仲介者は、文化的価値観であるパルダと織りとのバランスを図る役目も担っていた。仲介者は、工芸に関わる人々を結びつけ、様々なマネジメントを行うことで、1枚の布を作り、売るまでの道筋をコーディネートしているといえる。

本論の意義は、民族誌的調査を行うことによって、調査地についての詳細な記述を提供することができた点、布研究に開発援助活動という視点を組み込んだことで、従来村落での布の生産に留まりがちであった研究の視点を布の販売にまで広げ、布の生産から販売までのルートに関わる人々の社会関係を包括的に見ることができた点、そして、地域の文化的価値観を維持しながら開発援助活動の利点を主体的に取り込み、手工芸の活性化を図る仲介者等の活動を明らかにすることによって、伝統工芸と社会動態研究の発展に示唆を与えた点である。